

～ 今月の図書案内 ～

新緑の美しい季節になりました。GWはどのように過ごしましたか？
1ヵ月経って、新生活に慣れた頃でしょうか。今月の新着図書はありませんが、本屋大賞にノミネートされた作品など話題の本も揃えているので、読んだことのない本にもトライしてみてください。リクエストも受け付けています。

★図書館からのおすすめ本

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

開館時間 8:35～16:45（色つきの日は閉館日 予定は変更することもあります）



「銀河鉄道の父」 門井 慶喜

「銀河鉄道の夜」で知られる作家・宮沢賢治の父親・政次郎を主人公にした物語。子どもに厳しくしたいと思いつつも子煩悩な政次郎と、時には父に反発しながらも甘えてしまう賢治。そんな二人を主に、宮沢家の日々を描いた家族小説です。現在映画が公開中なので、この機会に読んでみてはいかがでしょうか。第158回直木賞受賞作。



「川のほとりに立つ者は」 寺地 はるな

カフェの店長・原田清瀬は、恋人の松木とすれ違いが続いていた。原因は彼の「隠し事」のせいだ。ある日、松木が大怪我をして意識不明だ、と病院から連絡を受ける。彼の部屋で隠されていたノートを見つけ、彼の秘密を少しずつ知ることになり…。正しさで消されゆく声を丁寧に紡ぎ、身近な人に寄り添いたくなる心優しい物語。

「その本は」 又吉 直樹・ヨシタケ シンスケ

本好きの王様は年を重ね、目がほとんど見えません。2人の男を城に呼び「世界中をまわって『めずらしい本』について知っている者を探し、その本について聞いたことを教えてほしい」と頼んだ。旅に出たあたりは、たくさんの本の話を持ち帰り、王様のために夜ごと語る。文章だけで表現したり、イラスト付きだったり…笑えて泣ける、本にまつわる物語。



「新種発見 見つけて、調べて、名付ける方法」 馬場 友希 / 福田 宏 編著

ツイッターに寄せられたエピソードを中心に、21人の新種発見の話を収録。新種を見つけることは非常に難しいと思いますが、4歳の子どもがヨコエビの新種を発見したり、研究者が自宅の駐車場でクマムシの新種に出遭うなど、意外と身近なところに潜んでいる場合もあることがわかります。新種発見の喜びや興奮が伝わる本です。



「一睡の夢 家康と淀殿」 伊東 潤

徳川家のため天下を取るべく謀略を駆使する家康と、息子の秀頼を護るため豊臣家を守りたい淀殿（信長の姪）の戦いの日々を描く。お互い憎み合うわけではないのに闘わなければいけない現実の厳しさや、頂点に立ち続けることの難しさ、そして豊臣家の誇りや家康が彼らの死を乗り越えて成し遂げたことは何だったのか…どこか物悲しくも心に響く作品です。



「うまたん—ウマ探偵ルイスの大穴推理」 東川 篤哉

名探偵は、コテコテの関西弁を喋る馬!? 殺人、窃盗、金銭トラブル…小さな田舎町で起こる不可解な事件に、元競走馬と牧場の娘のコンビが挑む全5編を収録した連作短篇集。ある時は探偵だったり、ある時は容疑者になったり、トリックや動機を推理し…すべての事件の裏に「馬」在り!? 馬だらけのユーモアたっぷりの短編集。